

2017年3月期 第2四半期決算概要

2016年11月10日
千代田化工建設株式会社

1. 業績概要

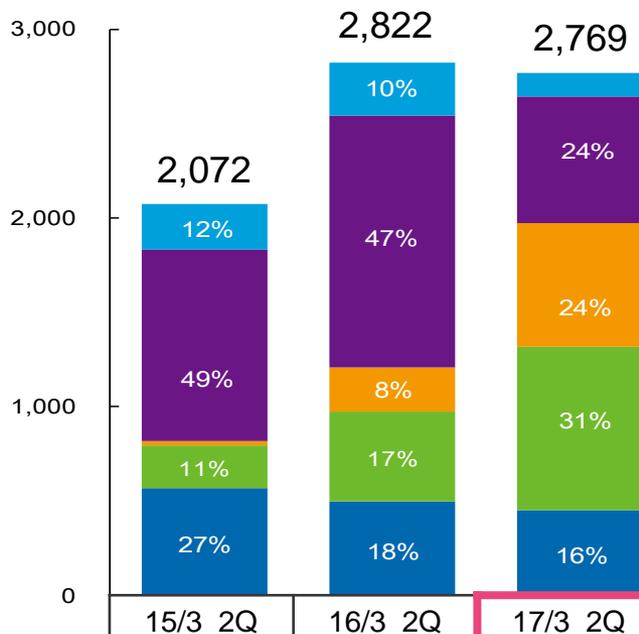
単位: 億円

	16年3月期 2Q	17年3月期 2Q	前年 同期比	伸び率	期首 通期予想	達成率
受注高	2,024	1,332	△692	△34.2%	4,700	28.4%
完成工事高	2,822	2,769	△53	△1.9%	5,500	50.4%
営業利益	100	46	△54	△54.4%	180	25.3%
経常利益	107	103	△4	△3.7%	140	73.4%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	56	56	0	0.8%	50	112.2%
包括利益	32	△38	△69	-		
為替レート	120 円/\$	101 円/\$			期首想定 レート 110 円/\$	2Q 時点想定 レート 105 円/\$

期首から約10円の円高となったが、露LNG(ヤマル)、豪LNG(イクシス)、米LNG(キャメロン、フリーポート)が順調に進捗し、完工高は期首想定レベルに達した。円高により営業利益は減益なるも、包括為替予約による営業外損益の改善により、経常利益以下はほぼ前年同期レベル。今後、一部海外子会社、関連会社の損失取り込みが見込まれることから、期首通期予想は据え置く。

2. 完成工事高

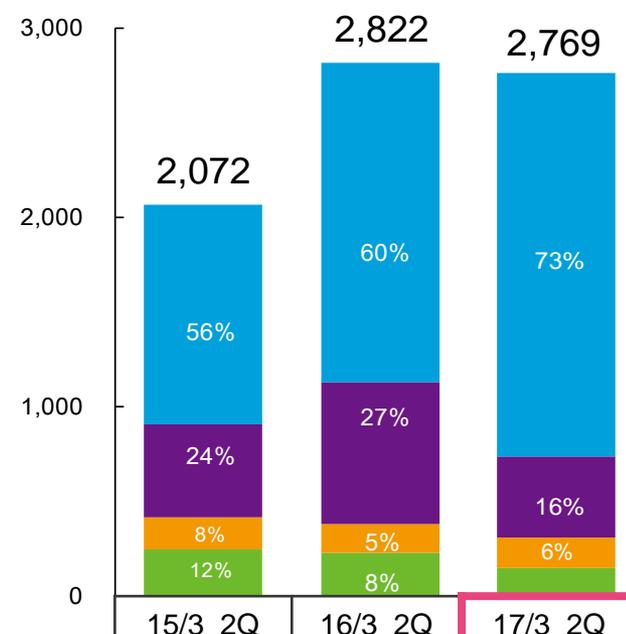
<地域別>



■ 中近東・アフリカ	241	277	127
■ アジア・オセアニア	1,010	1,336	666
■ 北中南米	27	235	660
■ その他	228	477	862
海外 合計	1,506	2,325	2,316
国内 合計	566	498	453

<分野別>

単位: 億円



■ LNG・その他ガス	1,165	1,690	2,032
■ 石油・石油化学・金属	491	753	433
■ 医薬・生化学・一般化学	173	151	162
■ 環境・新エネ・インフラ	243	229	143

露LNG(ヤマル)、豪LNG(イクシス)、米LNG(キャメロン、フリーポート)が順調に進捗し、円高にもかかわらず、概ね前年同期並みとなった。

3. 利益関連項目

単位: 億円

	16年3月期 2Q	17年3月期 2Q	前期比
完成工事総利益	218 7.7%	151 5.4%	△67 △2.3pt
販売費及び一般管理費	△118	△105	13
営業利益	100 3.5%	46 1.6%	△54 △1.9pt
営業外損益	7	57	50
経常利益	107 3.8%	103 3.7%	△4 △0.1pt
特別損益・税金・ 非支配株主に帰属する四半期純利益	△51	△47	4
親会社株主に帰属する四半期純利益	56 2.0%	56 2.0%	0 0.0pt

円高により完工総利益、営業利益は前年同期比を下回るも、包括為替予約による営業外損益の改善により、経常利益以下はほぼ前年同期レベル。

4. バランスシート

単位: 億円

	16年3月末	16年9月末	増減
【流動資産】	4,550	4,214	△336
現金及び預金等 *1	1,447	1,276	△171
営業資産三勘定 *2	1,043	942	△101
JV持分資産 *3	1,794	1,673	△121
その他	266	323	57
【固定資産】	732	530	△202
有形固定資産	139	132	△7
無形固定資産	111	96	△15
投資等	482	302	△180
【資産】	5,282	4,744	△538

	16年3月末	16年9月末	増減
【流動負債】	3,111	2,644	△467
短期借入金	3	2	△1
営業負債三勘定 *4	2,857	2,453	△405
工事損失引当金	32	42	10
その他	219	147	△71
【固定負債】	150	143	△7
長期借入金	100	100	△0
その他	50	43	△7
【純資産】	2,021	1,958	△64
【負債・純資産】	5,282	4,744	△538
【自己資本】	2,002	1,939	△62
【自己資本比率】	37.9%	40.9%	3.0pt

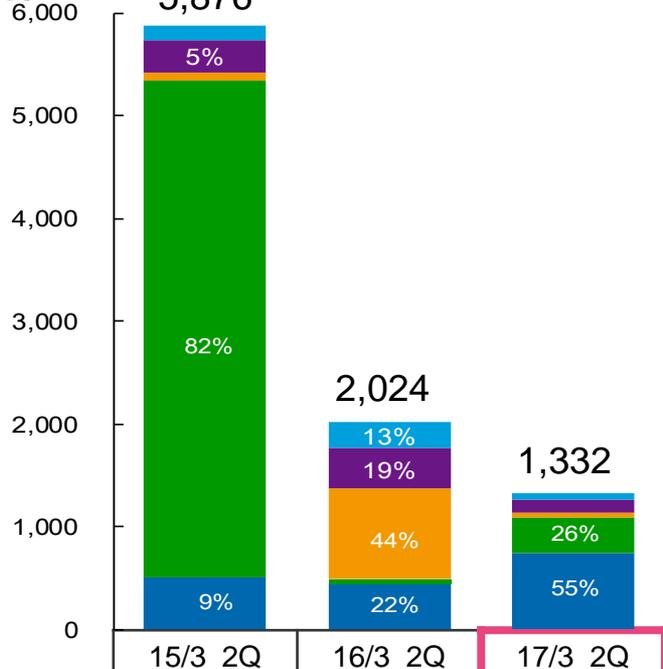
【注】

- *1 現金及び預金等＝現金預金＋有価証券(譲渡性預金等)
- *2 営業資産三勘定＝受取手形・完成工事未収入金＋未成工事支出金
- *3 JV持分資産: ジョイントベンチャーにおける当社持分に相当する現預金
- *4 営業負債三勘定＝支払手形・工事未払金＋未成工事受入金

プロジェクトの進捗に伴い、営業資産、営業負債共に減少し、JV持分資産が減少した。
EMAS CHIYODA Subsea社株式、投資有価証券売却により投資等が減少した。
純資産は若干減少となるも、自己資本比率は40.9%となった。

5. 受注高

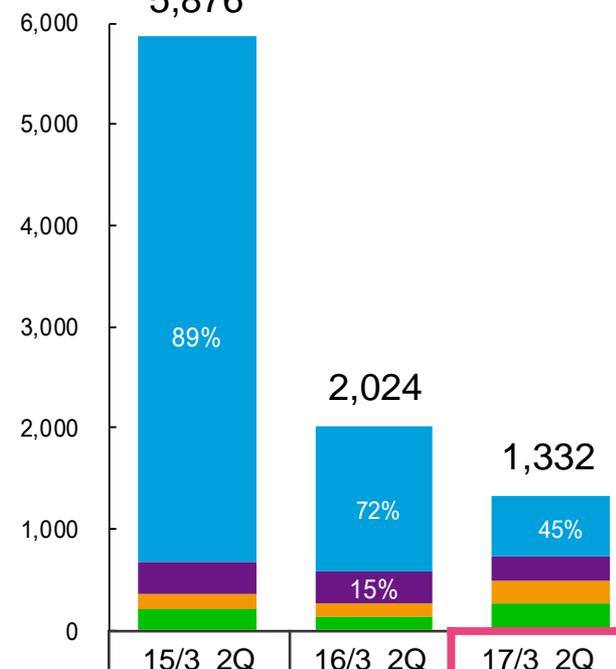
<地域別>



	15/3 2Q	16/3 2Q	17/3 2Q
■ 中近東・アフリカ	140	266	70
■ アジア・オセアニア	316	394	126
■ 北中南米	77	881	50
■ その他	4,842	45	352
海外 合計	5,375	1,586	597
■ 国内 合計	501	439	735

<分野別>

単位: 億円

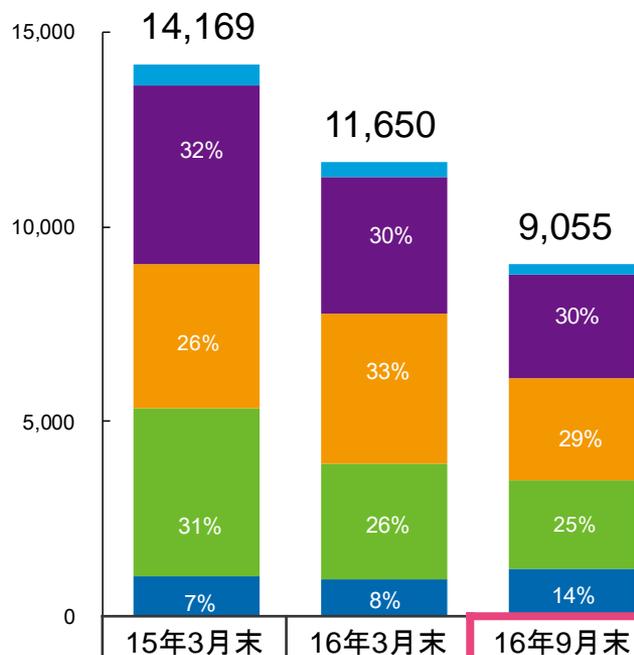


	15/3 2Q	16/3 2Q	17/3 2Q
■ LNG・その他ガス	5,202	1,446	605
■ 石油・石油化学・金属	324	310	241
■ 医薬・生化学・一般化学	146	131	215
■ 環境・新エネ・インフラ	204	137	271

国内案件は順調。海外案件は露LNG(ヤマル)等の追加工事中心。インドネシア タンゲーLNGのEPC受注は3Qに計上予定。

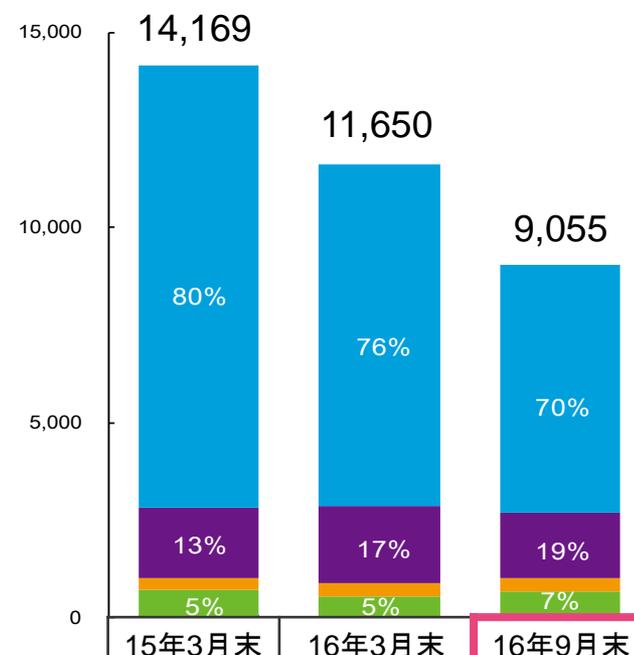
6. 受注残高

<地域別>



■ 中近東・アフリカ	549	355	261
■ アジア・オセアニア	4,565	3,532	2,685
■ 北中南米	3,709	3,835	2,625
■ その他	4,343	2,967	2,257
海外 合計	13,167	10,689	7,828
国内 合計	1,002	961	1,227

<分野別>



■ LNG・その他ガス	11,361	8,800	6,350
■ 石油・石油化学・金属	1,802	1,986	1,711
■ 医薬・生化学・一般化学	317	324	347
■ 環境・新エネ・インフラ	689	539	647

3Q以降はLNG案件の受注により、同レベルを維持する見込み。

参考資料



© Chiyoda Corporation 2016, All Rights Reserved.



2017年3月期 通期業績予想の内訳

単位: 億円

	16年3月期 実績	17年3月期 予想	前期比
受注高	4,036	4,700	664
海外	2,957	3,600	643
国内	1,079	1,100	21
完成工事高	6,115	5,500	△615
海外	5,001	4,300	△700
国内	1,115	1,200	85
完成工事総利益	415	420	5
販売費及び一般管理費	△255	△240	15
営業利益	160	180	20
営業外損益	2	△40	△42
経常利益	162	140	△22
特別損益・税金・ 非支配株主に帰属する当期純利益	△128	△90	38
親会社株主に帰属する当期純利益	34	50	16

経営指標

	13年 3月期	14年 3月期	15年 3月期	16年 3月期	17年3月期 予想
完成工事総利益率(%)	10.7	9.3	9.5	6.8	7.6
完成工事高販管費率(%)	4.4	4.6	5.0	4.2	4.4
完成工事高営業利益率(%)	6.3	4.7	4.5	2.6	3.3
完成工事高経常利益率(%)	6.4	5.1	4.6	2.6	2.5
完成工事高当期純利益率(%)*	4.0	3.0	2.3	0.6	0.9
総資産経常利益率<ROA>(%)	6.4	5.0	4.5	3.1	
自己資本当期純利益率<ROE>(%)*	9.0	7.0	5.5	1.7	
一株当たり当期純利益<EPS>(円)*	62.06	51.91	42.58	13.03	
一株当たり純資産<BPS>(円)	727.24	758.31	796.89	772.89	
自己資本比率(%)	43.3	41.3	40.0	37.9	
流動比率(%)	166.3	156.3	151.0	146.3	
固定比率(%)	27.7	33.7	34.5	36.6	
負債純資産倍率<DER>(倍)	0.05	0.06	0.05	0.05	

*親会社株主に帰属する当期純利益金額にて算出しております。

経営現況報告

2016年11月10日

千代田化工建設株式会社

代表取締役社長 澁谷 省吾

2017年3月期2Q 完成工事高に含まれる主な案件

◆ LNG・ガス分野

- オーストラリア・米国・ロシア LNGプラント建設工事
- LNG スタディ・基本設計業務
- カタール 千代田アルマナ社 長期EPCm*1業務
- インドネシア洋上ガス設備 EPCI*2業務

◆ 石油・化学・金属分野

- ベトナム 製油所・石油化学コンプレックス
- カタール 製油所建設工事
- サウジアラビア スポンジチタン製造プラント建設業務
- 国内 製油所・化学プラント更新工事

◆ オフショア・アップストリーム分野

- オフショア・アップストリーム スタディ・コンサルティング業務

◆ 新エネルギー・環境・インフラ・その他分野

- モンゴル、フィリピン 新空港建設工事
- 国内 ライフサイエンス関連 再生医療関連施設EPC業務、医薬品製造施設工事
- 国内 メガソーラー建設工事
- 設備診断、自然災害対策コンサル業務、O&M*3

*1 EPCm; Engineering, Procurement and Construction management

*2 EPCI; Engineering, Procurement, Construction and Installation

*3 O&M; Operation & Maintenance

2017年3月期2Q 主な受注案件

◆ LNG・ガス分野

- インドネシア LNGプラント EPC案件 タングーLNG プロジェクト第3系列*1
- 既受注LNG案件 追加工事

◆ オフショア・アップストリーム分野

- サウジアラビア Hasbah 海洋ガス田開発プロジェクト (第2フェーズ) EPCI*2

◆ 石油・化学・金属分野

- 既受注案件 追加工事
- 国内 金属案件 建設工事
- 国内 製油所・化学プラント更新工事

◆ 新エネルギー・環境・インフラ・その他分野

- 国内 ライフサイエンス関連 再生医療関連施設EPC案件、医薬品製造施設工事
- 国内 石炭火力発電所向け排煙脱硫設備EPC
- 国内 メガソーラー建設工事
- 設備診断 (国土強靱化対策)、O&M

*1 Tangguh LNG は、当社海外Gr. 企業が主契約者でありEPC契約締結済なるも、連結計上は2016年度3Qとなるため、2016年度2Q 決算には含んでいない。

*2 設立・運営を開始したEMAS CHIYODA Subsea によりEPCI 業務の受注したもののが、同社は持分法適用会社のため当社グループの受注高には含まれない。

オフショア・アップストリームの動向

- サウジアラビア サウジアラムコ社向け
Hasbah 海洋ガス田開発プロジェクト (第2フェーズ)
EPCI 受注*



- **EMAS CHIYODA Subsea 社に日本郵船(株)が資本参加**

出資比率

Ezra Holdings (40%)

Chiyoda Corporation (35%)

Nippon Yusen Kabushiki Kaisha (25%)



* 設立・運営を開始したEMAS CHIYODA Subsea によりEPCI 業務の受注したもののだが、同社は持分法適用会社のため当社グループの 受注高には含まれない。

AI/Big Data への取組み

2016年10月
新組織 AIソリューションユニット 発足

<背景>

- 業界問わず、Big Data/AI* 技術の活用による産業構造の革新が進む。
- 当社もその例外ではなく、スピード感をもってこの分野に取組み、会社の成長に繋げる必要がある。

<狙い>

- コア技術であるプラント設計・解析技術と最新Big Data/AI技術を融合した「新世代プラントビジネスの創世」を目指す。



* AI; Artificial Intelligence

事業環境と受注取組方針

- ◆ 原油・ガス価格の低迷は依然として続いており、上流開発やLNG案件に対する最終投資決定（FID）は遅れ気味。オフショア・アップストリーム分野は、日本郵船殿の技術・知見・経験を生かし事業展開を加速化する。
- ◆ 新規LNG 案件は、経済性に優れた増設案件、大型ガス田（東アフリカ沖）をベースとする案件及び、豊富なLNG経験を持つ顧客（Shell、ExxonMobil）等の案件はFIDの可能性が高い。当社は、上記の各種案件で優位なポジションを確保済。
- ◆ LNG 以外の分野については、採算性を重視した案件選別を継続する。

今後の受注見通し

◆ LNG・ガス分野

- 新規LNG案件 (米国・カナダ・ロシア・モザンビーク) / EPC案件
- 海外拠点Brown Field案件* (カタール・東南アジア他) / EPCm及びEPC案件

◆ オフショア・アップストリーム分野

- スタディ・コンサルティング
- FEED・EPCI 案件

◆ 石油・化学・金属分野

- 石油・化学案件 (米国・イラン) / 金属案件 (東南アジア・中南米)
- 海外拠点Brown Field案件 (東南アジア) / EPCm及びEPC
- 国内 設備新設・更新案件、国内顧客の海外進出案件

◆ 新エネルギー・環境・インフラ・その他分野

- 太陽光発電案件
- 環境保全案件ほか各種産業設備案件

◆ 医薬ライフサイエンス

- ライフサイエンス案件 (再生医療 / 原薬・ジェネリック・バイオ関連 設備)

* Brown Field案件; 既存プラントの補修・改修

収益改善と将来成長にむけた努力

- ◆ 豊富なLNG受注残を着実に収益化していく。
- ◆ 遂行案件においては、追加工事の獲得による収益改善を図る。
- ◆ 足元から将来の成長に向け、新規分野（金属、ライフサイエンス、水素、再生可能エネルギー、AI）に注力する。
- ◆ グループ会社の事業運営支援強化を継続する。

【お問い合わせ先】

千代田化工建設株式会社

IR・広報・CSR セクション SL 塚本 朋之

〒220-8765 横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
みなとみらいグランドセントラルタワー

TEL. 045-225-7734 FAX. 045-225-4962

URL <https://www.chiyoda-corp.com/contact/index.php>

この資料には、2016年11月10日現在の将来に関する見通しおよび計画に基づく予測が含まれています。
経済情勢の変動等に伴うリスクや不確定要因により、予測が実際の業績と異なる可能性があります。